

伊賀市社会事業協会

2021

2021年1月15日 第39号
発行者
社会福祉法人伊賀市社会事業協会
理事長 藪内 勝
〒518-0032 三重県伊賀市朝屋739番地の2
TEL:0595-21-5545
FAX:0595-23-6670
URL <http://www.iga-sjk.or.jp/>

『元通り』はない

社会福祉法人伊賀市社会事業協会

名誉顧問 森下達也

新型コロナウイルスという奇妙な感染症が、私たちの前に姿を顕してからほぼ一年が過ぎた。この、強いか弱いかよくわからない感染症を見くびっていると、手痛い一撃を喰らうことになったのである。西アフリカから拡がり、死亡率九十%ともいわれるエボラ出血熱は、ともかくにも今日封じ込められているが、対照的に新型コロナウイルスは、人類の油断を見透かすごとく、たちまち世界に拡がった。死亡率は左程高いとは言えないけれど、歴大な感染者と死者を出しつづけていることは、ご承知の通りである。

私は、「感染症の世界史」石弘之（二〇一四年 洋泉社）を、親しい書店に探してもらい、買い求めた。何ともはや、人の天敵微生物の内、その存在を聞き及んでいるものだけ拾い出しても大変な数である。天然痘、マラリア、ペスト、コレラ、デング熱、エボラ出血熱、エイズ、チフス、眠り病、結核、ハシカ、風疹、水痘帯状疱疹ウイルス、ピロリ菌、狂犬病ウイルス、インフルエンザ、SARSウイルス、新型コロナウイルス云々、という具合であるがウイルスと細菌を合わせれば何億あるのかわからないそうだ。

想起すれば、微生物とは、人類にとって唯一の天敵であると同時に、生命誕生からつづく進化の原点であり、大切な味方でもあると教わった。つまり微生物の存在しない地球なら人類も誕生し得ないということか。それにしても何故、殺し合い迄しなければならぬのだ。天界に御座します、宇宙の創造者としての神よ、恐ろしい設計図を造りたもうたのは何故か、お聞かせください。

さて、現実にも目をもどすと、私たちをとりまく世界と社会が、大変脆く乱雑で、コロナ禍に立ち向かう精神も混乱していることを思い知らされた一年でもあった。災厄の痛みを最初にこうむるのが一般庶民であることは、誰しも承知しているが、ここではあえて非日常的な出来事を取り上げさせて頂いた。

米大統領選も終わったが、トランプ閣下の悪あがきには驚いた。しかし彼にすれば、「コロナとかいうヤツがあんなタイミングで出てはこなかったら、頭のいいオレのすばらしい選挙を さあ見てくれと立つ所だったのに」と悔しがっているだろう。物の本によれば、独裁者又は独裁者の人物には、ナルシストが多いという。ひと口に言えば、自己陶醉型であるが、始末の悪いことに自分の死に際してはなるべく多くの道連れを欲する性癖である。典型はアドルフ・ヒトラーで、歪んだ性癖の存在を二度露呈した。最近のアメリカを見てみると、核のボタンをはじめ大統領だけが握るべき物騒な特権の数々、新大統領によってその安全管理の実行を、再確認して頂きたいものである。何しろ日本は一蓮托生になりかねない同盟国だから。

過日、米原子力空母ルーズベルトが、航海中の艦内で新型コロナウイルスの集団感染を発生、移動を停止して支援を乞うた艦長の、資質が問われた。数千人の乗組員がいる最強の海軍移動基地が、あれよあれよという間に応戦不能の標的になった責任ということか。戦争一色の時代に育った私として、報道からまず思ったのは、巨艦のトップでもサラリーマンだなどという揶揄。いやいや、人類の未来を変えようかというパンデミックの波が繰り返す中であるから、このくらいのことには仕方ないのかも。それより今日すでに多



伊賀市小田町にある開化寺の山門と三重塔
〈雪の寺〉 松田 昇 写真集「風土記」より

くの人間を葬り、世界を変えようとしている何者かの正体を確定することが先決なのだろう。

新型コロナウイルスのパンデミックが、本当に人類の未来を変える力を持っているのか、変え得るとすればコロナの前と後とで何が変わるのか、この一年間に、多くの予測や提言がなされている。著名な経済学者、歴史学者、進化心理学者、起業家、コラムニスト、小説家、等々で、私も手に入れては走り読みをした。それぞれが専門の立場からの視点と重点をもってお書きであり、いわば大分異なる羅針盤を同時に見るようなものであるが、今年九十歳をむかえる私にとって、思いも寄らない集中力をしほり出して読まねばならない羽目になった。正直にいうと得たものは、「借り物ではなくまず自分で描け」という示唆だけかもしれない。

四季うつろう日本に順応し、変身し、更に毒性を強めて行く、この厄介なタイプのウイルスと共存して行く未来の社会は、一体どんなものであろう。

「ペスト」と聞くと、多くの人がフランスの作家アルベール・カミュが書いた架空の小説ペストの方を思い起こす。一九五七年にノーベル文学賞を受賞したカミュの代表作で、アルジェリアのオラン市で疫病ペストが発生、封鎖された都市の中で疫病という不条理に反抗する人々を描く。カミュの小説は架空であるが、本当のペストは古代ローマの時代から近代に至る迄世界各地で大流行、人口の激減が記録されている。日本でも神戸に入港した台湾船から感染が拡がり二二一五人の死者を出したそうだ。感染を拡散するのはネズミに寄生するノミであることはほぼわかっていたから、次第に防禦対策も向上し、一八九四年にはペスト菌も発見されて、遺伝子の解析も進んだ。カミュのペストの翻訳本は何種類もあり、読み易い文体のものを確かめて求めたい。

ペスト、コレラ、ポリオなど恐ろしいが、医学、疫学、ワクチンなどによって完全に防禦し得るもの、エイズウイルスの様に人間社会のくらやみに潜入し拡がりつづけるもの、医療水準の高い日本で何故か後進国というレッテルを国際的にはらわれてきたハシカウイルス等々、「敵」は多様であることを知った。

では主題の新型コロナウイルスはどうなのだろう。私は、比較にもならないほど「難敵」ではないかと思っている。インフルエンザ、SARS、コロナ、つまりは現代の過密社会に完璧に適応した一群にとつて、戦場には申し分ない。ワクチンは、副反応さえクリアすれば最も有効であろうが、ポリオの様に絶滅宣言を出せる性格のものではあるまい。四季うつろうこの国では、忘れかけた頃に出現し、超新型コロナウイルスとしてパンデミックを繰り返すと考えておくべきではないだろうか。一つ付け加えれば、今のコロナは何故か血栓症を引き起こしやすくなっているようで、進歩をつづける人間の科学文明の、小さな隙をねらう狡猾さは大したものだ。

新型コロナウイルスは、社会や仕事や生活の仕組みを、大掛りにひっくり返した。史上はじめてのことだろう。多くの人の願いは「仕事も収入も 早く元通りにもどってほしい」ということである。そうあつてほしいが容易いことではない。例えば、三密を回避するための店舗改修は、単位面積あたりの集客と売上の減少を承知の上での行動であつて、インフルエンザワクチンの有効期間くらいの平穩で、さあ元通りに、とは多分出来まい。

それからもう一つ、今多くの事業所で進めているダウンサイジングは、突如襲来したパンデミックへの初動にすぎない。そこで留意すべきは、高齢化の進行や出生率低下によるダウンサイジングとは、全く違う対応が求められるということではないか。

紙面が尽き、尻切れ蜻蛉に終わることをお許し頂きたい。このパンデミックが、国際政治と国内政治、民主国家と独裁国家などの力関係に、早くもわずかな変化を引き起こしたのではないかと申し上げてみたかったが、別の機会に譲りたい。

参考 感染症の世界史 石 弘之

コロナ後の世界

ジャレド・ダイアモンド スティーン・ピンカー リンダ・グラットン

パンデミック

スコット・ギャロウェイ ポール・クルーグマン マックス・テグマー

ベスト

ユヴァル・ノア・ハラリ

ペスト

アルベール・カミュ

「多年の

ご奉仕に

感謝」

日本盲人社会福祉施設協議会主催の第68回全国盲人福祉施設大会において、上野点字図書館のボランティアの方々から表彰を受賞されました。心からお祝いを申し上げます。

奉仕活動者表彰

点訳ボランティア

原田 広子さん

音訳ボランティア

岡森 芳子さん

令和2年度受賞者

全国社会福祉協議会会長表彰

古山 保育園

園長 佐治 よし子

園長 西崎 公代

三田 保育園

園長 西崎 公代

三重県知事表彰

盲養護老人ホーム梨ノ木園

主任支援員 奥西 裕子

「研修報告」

環境を工夫した保育を考える 〜モデル園の取り組み〜

保育園職員研修組織わかば会

当法人は、規模や地域性がさまざまな保育園が13園あり、法人としての基本方針は同じとしながらも、各園が独自性を持って運営しています。昭和44年発足の研修組織「わかば会」は、これまで積み上げてきた大切なものを守りながら、これからの時代に合った保育に変革していくことへの必要性を感じ、改定保育所保育指針を基に「環境を工夫した保育を考える」をテーマに保育の見直しに取り組みました。また、例年行なってきた公開保育は、まずモデル園3か園を決めて実施しました。

友生保育園(0・1歳児クラス)

・保育室の環境を変え、子どもにも勇気がいりました。子どもへの反応に変化があると、「子どもたちが喜ぶことって何だろう?」と考え、今までよりも子どもの様子をよく見るようになりました。



・子どもの成長発達と興味に合わせたあそびのコーナーを作ると、子どもたちが生き生きと自分のやりたいあそびを見つけて遊ぶようになりました。

みどり保育園(1歳児クラス)

・子どもの興味に合わせて玩具を見直したり、子どもが落ち着く空間づくりをしました。

・自ら選んで遊ぶようになると、子ども同士の噛みつきや引っ掻きが少なくなりました。

・園周辺は交通量が多く、安全面から園外散歩の機会が減っています。そこで、空き部屋をプレイルームとして活用し、さらに今年度は、中庭スペースを乳児用園庭としてリニューアルしました。子どもたちは、主体的に遊びをみつけ、からだを動かして生き生きと遊んでいます。



ゆめが丘保育園(5歳児クラス)

・自由あそびの時間を中心に見直しました。子どもの「遊びたい」「やってみたい」という気

持ちを自由に表現できるように、ままごとコーナー、制作コーナー、ブロッコリーコーナーなどの充実を図りました。

・特に制作への興味が膨らみ、どんどん発想が広がって工夫して作る子が現れてきました。

今後の取り組み

今年度は全保育園に広げられるべく取り組みを継続しているところです。この取り組みにより、職員同士の話し合いが増え、保育における「あそび」の重要性について考えることが多くなると、保育者自身が大事な環境の一つであるという思いをあらためて強く意識するようになりました。

「子どもを保育の中心に!」一人ひとりを大切にしたい保育とは、実はとても難しいものであると思います。が、そこを保育者が何度も振り返り、心に留めながら、これからも取り組んでいきたいと思えます。



力を合わせてお米作り

盲養護老人ホーム 梨ノ木園

昨年、利用者と一緒に始めたトマト作り。「今年は違うものを作りたい」との声から、お米作りに挑戦することになりました。

清々しい五月晴れの日、プランターに苗を植えました。水をあげたり、雑草を取り除いたり、収穫の時を楽しみに数か月が経ち、ついにその時が訪れました。たわわに実った稲を刈り、精米までを昔ながらの手作業で行ない、「はさがけし、脱穀。3合

ほどのお米を収穫することができました。収穫したお米は皆さんで味わっていただきました。「美味しかった！自分たちで作ったお米を食べられるとは思わなかった」と喜んでくれました。

お米作りに参加された皆さんからも「昔を思い出して懐かしかった、成長の過程を感じるのが楽しかった、また作りたい」との声がありました。次回の物作りも楽しみです。



うれしい収穫の時

オンライン交流授業

特別養護老人ホーム 第二梨ノ木園

介護福祉士国家資格取得を目指す伊賀白鳳高等学校ヒューマンサービス科3年生と、オンラインで教室と施設をつなぎ交流授業を実施しました。

本来、3年生は施設実習を通じて、介護計画を作成しますが、新型コロナウイルスの影響で施設実習が中止となりました。そこで何か出来ることはないかと相談し、今回の授業計画に至りました。

当日は、画面を通じて利用者との会話から計画作成に必要な情報を聞き取りしていただきました。

今後は、生徒の皆さんが作成した介護計画と、施設で実際行なっている計画とを対比する交流授業を計画しています。



オンラインツールを使った授業風景
④第二梨ノ木園 ⑤伊賀白鳳高等学校

だるまさんに願いを込めて

老人デイサービスセンター なしのき

11月上旬、当センターでは「なしのき芸術祭」を開催し、利用者により「ちぎり絵だるま」を制作していただきました。

だるまは赤色と思いがちですが、様々な色と意味があります。赤は「家内安全」、黄は「金運向上」、紫は「健康長寿」と言われているそうです。その中からそれぞれ好きな色を選んでいただきました。画用紙に描かれただるまを指で切り取り、色紙に貼り付け言葉を書き入れて、飾りをつければ完成です。

最初は「難しくくてできないわ」と言っていた皆さんも、「世界に1つだけの作品ができたわ」と喜ばれていました。短い時間でしたが、芸術に触れるひとときを楽しんでいただくことができました。



一生懸命願いを込めています



でき上がった力作

コロナになんか負けないよ！

— 第20回往古梨まつり —

身体障害者支援施設 梨丘園

新型コロナウイルス感染症の流行により外出事は全て中止となり、ほとんどの時間を園内で過ごしています。

そこで今回の往古梨まつりは、「園内で今まで以上に楽しい事をしよう」と、オリジナルTシャツ作りやウッドデッキでの食事を楽しみました。

おやつには、園芸クラブで育てたさつまいもを焼きいもにしました。ほくほくに焼け、甘くてとても美味しいと大好評でした。

メインイベントでは『タイダイ染Tシャツ作り』に挑戦。タイは（絞る）、ダイは（染める）を意味し、絞り方や彩色の具合で、世界に1つだけのTシャツが作れるとあって、皆さんデザインや色合いを真剣に考えていました。

完成したTシャツは夕食時にお披露目会を行ない、「素敵！ かつこいいい！」と歓声が上がりました。



オリジナルフォトフレームの中でハイチーズ！



Tシャツのデザイナーは私です

皆さんの思い出は、手作りの『往古梨まつりオリジナルフォトフレーム』を設置して撮影した写真とともに、心のアルバムに刻まれました。

日本語コミュニケーションもバッチリ

— ベトナム人介護技能実習生 —

第二梨ノ木園では、一昨年11月からベトナム人介護技能実習生2名を受け入れています。二人は、日本語能力試験N3の試験に合格して入国しました。その後1年が経過し、12月には、目指している日本語能力試験N2の試験にチャレンジするところまで語学力が身についてきています。日々の業務における職員や利用者とのコミュニケーションも2年目とは思えないほどレベルアップしています。利用者からは、日本の歌や童謡のほか、伊賀地方の方言も教えてもらい、自由に言葉をあやつる様子を、職員もほほえましく眺めています。二人とも真面目で向上心があるため、彼女たちの姿がまわりの職員への良い刺激になっているようです。

コロナ禍の影響で、観光を含めて自由に日本文化に接する機会が減っていますが、早く日常がもどりたい皆さんの日本の魅力を吸収してほしいと願っています。



はやっている指のハートマークでハイポーズ



ご利用者とのコミュニケーションもバッチリです

上野点字図書館

選挙情報を提供しています

選挙において、視覚に障害があるため文字が書けない人には、点字による投票が認められています。日本は、世界ではじめて点字投票が行なわれた国であることをご存じですか？

11月に執り行なわれた伊賀市長選挙では、上野点字図書館が伊賀市選挙管理委員会からの依頼を受け、点字版選挙公報のほか、投票用紙用の点字シール、点字版候補者名簿等を作成しました。今後も視覚に障害のある方々への情報提供に取り組みます。

すべての人に読書の楽しみを
資料等の展示会を開催

地域にある点字図書館を身近なものとして、市民の皆さまに知っていただくこと、10月31日(土)から11月12日(木)まで、銀座の館ギャラリー(伊賀市上野忍町)において展示会を開催しました。

点字図書や録音図書、点字タイプライターなど、上野点字図書館が所蔵する資料や用具を約80点展示し、12枚のパネルを使って点字図書館について紹介しました。



ギャラリーに展示された資料



慎重に作業を行なう職員

障害福祉サービス事業所 かしの木ひろば

心を癒すコスモス畑散策

晩秋の伊賀市では、休耕田を利用したコスモス畑があちこちで見られ、優しいピンクの絨毯が、多くの人の心を癒してくれます。そこで、伊賀鉄道「猪田道」駅近くに植えられたコスモスを見にいきました。

新型コロナウイルス流行のため、なかなか外出機会を得られませんでしたが、久々の外出に皆さんは「めっちゃきれいやったわ」「外の空気が気持ちよかった」と喜ばれていました。外出自粛の疲れを癒すひとときになりました。

楽しいごはんびぐり

Kさんは、週1回のヘルパー訪問と調理の時間をとても楽しみにされています。この日のメニューは「ニラとアサリのチヂミ」です。調理前の手洗い、アルコール消毒をしながら、作り方の手順を確認します。材料の切り方を伝えると、「こっかしら？」と聞いていねいに野菜を切る料理上手なKさん。焼き色を見ながら手際よくチヂミをひっくり返し、とてもおいしそうに出来上がりしました。

ヘルパーが「1つレパートリーが増えましたね」と声をかけると、「またヘルパーさんと一緒に楽しく作りたいです。色々なメニューに挑戦したいわ」と笑顔で答えられました。



鮮やかな包丁さばき



きれいなコスモスに満面の笑み

完成間近！ みどり第二保育園改築事業

昭和48年に建設した従来からの園舎は老朽化が著しく、国及び伊賀市の補助により全面改築する運びとなりました。住宅地内にある当保育園は一部2階建てとし、周辺の住宅を圧迫しないようゆるやかな片流れの屋根としました。また、限られた敷地の中で駐車場を最大限確保し、ラッシュ時の混雑を緩和したいと考えております。

ローコストかつ機能的な保育園を基本コンセプトとしつつ、乳児室に洞穴を模した空間や、2階廊下にキッズスペースを設けるなど、子どもが自ら遊びこむ仕掛けを随所にちりばめました。新園舎に園児の元気な歓声が響く日を心待ちにしながら、安全に工事を進めております。



完成間近の新園舎



取り壊された旧園舎へ贈った子どもたちのメッセージ

快挙！ 2度目の日展入選!!

曙保育園の長谷川望栄養士が、改組新第7回日展「書」の部門に入選しました。第5回日展で初入選し、2度目の入選です。そこでこの栄誉をたたえ、長谷川さんにインタビューさせていただきました。(インタビューー尾崎)

〔尾崎〕書道を始められたのはいつですか？

〔長谷川さん〕小学1年生の時に近所の書道教室に通い始めましたが、学生生活が次第に忙しくなるとやめました。社会人になりしばらくした頃「大人の書道教室」のチラシに目が留まりました。再び書の世界に入ってみようという感情が湧き立ち、思い切って入門しました。教室の皆さんのひたむきな姿や、先生の熱心なご指導に、日々大きな刺激を受けています。

〔尾崎〕作品はどういう時、どのような場で書かれますか？

〔長谷川さん〕疲れていると良い作品が書けないので、体をしっかり休め体調を万全に整えます。主に出勤前や休日の朝に自宅に書いています。また、書いた作品を見返しながら作品構成を考えたり、字を調べ直したりもします。

〔尾崎〕今後どのように書道に向き合っていきたいと思われますか？

〔長谷川さん〕再び書道を始めたい。憧れの舞台である日展に2度も入選ができ、大変うれしく誇りに思っています。今回は一昨年の入選が幻でない証となるよう頑張りました。仕事とプライベートが充実したものであるからこそ、作品作りに集中して取り組めるのだと感じています。今の仕事を頑

張りつつ、趣味として長く続けていきたいと思っています。

〔尾崎〕最後に、長谷川さんにとって書道とは何ですか？

〔長谷川さん〕書は形が整っているだけでは評価されません。伝統を重んじつつ、強さ、深さ、余白の美しさなど指導を受けては悩み、苦しむ厳しい世界です。悔いを残さぬよう今持っている精一杯の力で、紙面と格闘した作品を今後も書いていきたいと思っています。書は自分のその時の心境が映し出されます。書に取り組むと心が落ち着きます。私は書が大好きです。



長谷川 望さん



第5回入選作品「李頎詩」



第7回入選作品「祖詠詩」

伊賀市を通じて医療従事者の皆さんへ園児の応援メッセージを贈りました



睦保育園



みどり第二保育園



ゆめが丘保育園



みどり保育園



友生保育園